



協働・実践 多元学習

— 言語と社会文化の交錯

Collaboration, Praxis, Pluralistic Learning :
Sociocultural Approaches to Japanese Language Learning

2018年東海大学日本語学文化学系国際シンポジウム

主催：東海大学日本語学文化学系 協賛：科技部、教育部、東海大学研究發展處



2018.1.20 Sat.

場所——東海大学 人文大樓 茂榜廳

申し込みサイト：<http://event.ithu.tw/201710091>

基調講演

地球市民教育としての多文化教育、日本語教育

— 山田 泉 日本法政大学教授

シラバスのむこう側：全体主義と市場主義に抗して

— 古川ちかし 東海大学日本語学文化学系助理教授

研究発表

1. 言語科目の中の社会・文化

謝億榮 文藻外語大學

日本語教育と文化学習の連結—異文化学習の試み

張又華 逢甲大學、東海大學

林盈萱 逢甲大學

タスクに基づく言語指導法における学習者の「産出」の評価基準の考案—JFスタンダードにおける能力Can-doの評価基準を参考にした実行結果から—

黃淑燕 東海大學

中級読解—日本現代社会文化を読む

尹鎬淑 CYBER韓國外國語大學

社会・文化的背景による日本語教材の変化及び協働学習

学部生、院生ポスター発表

趙翎君、劉映伶、許筠靈、陳柏君
媒體越境活動計劃

黃真實、葉芷好、郭家欣

北海道Farm Stay體驗(ファームステイ、私たちの十日間)

游韻加、阿部康平

命の守り方—海外労働と格差社会

林奧倫

少子高齢化社会における日本住宅問題と再生対策—大阪千里ニュータウンを事例として—

2. 日文系における社会・文化科目は何を目指すのか

許均瑞 銘傳大學

「ニュースの日本語」における労働観の可視化プロジェクト学習—概念の構造化・協同技法「ワード=ウェブ」の利用—

名嶋義直 琉球大學

「いま、ここ」にある社会問題をより深く理解するための批判的談話研究—沖縄オスプレイ「墜落」事故の新聞記事分析—

金想容 東海大學

日本統治時代の台湾における「味噌」の生産と消費—1900~1945年を中心に—

蕭幸君 東海大學

〈文学〉と〈サブカルチャー〉との間—東海日文系「日本近現代表象文化論」を一事例として

Jones Jason Christopher
Monash University

教育装置としての「ワイン・マンガ」—日本の漫画家が広める多言語のワイン教育

松永稔也 東海大學

言語の社会的位置付けを考える授業—台日社会語言分析(一)(二)—

林珠雪 東海大學

交流活動による学習と実践—「台日基層コミュニティ交流」を中心に—

荒井智子 銘傳大學

共に作り上げていく学びのかたち—日本語演劇の授業で—

張瑜珊 東海大學

内容学習を重視したビジネス日本語の試み

3. 現実の社会、人々とつながる教育実践

工藤節子 東海大學

日台の学生の協働とコミュニティの交流における課題

林珠雪 東海大學

領域間の提携と社会实践—農食育交流を中心に—

佐藤良子 愛知大學

「子ども食堂」—大学と地域社会との連携—

平澤佳代 朝陽科技大學

必修科目「服務學習」の実践について—朝陽科技大學応用英語学科の学生による学びを例に—

宮谷敦美 愛知県立大學

地域産業界と連携した多言語PBLでの学び—グローバル社会に必要な能力養成を目指した「地域ものづくり学生共同プロジェクト」の取り組みを基に—

羅曉勤 銘傳大學

日本語翻訳授業における地域社会とのつながりの試み

梅田康子 愛知大學

海外インターンシップ13年間の成果と課題